

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース69号

2013/10/14 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：

【9月30日～9月4日】：産地の天候不順が高値維持しているが、手じまい売りで下落

①週最高：12月LDN市場£1,707 / 12月NY市場\$2,640 (9/30) 先週比 **LDN-£4/NY+\$1**
②週最低：12月LDN市場£1,663 / 12月NY市場\$2,585 (10/3) 先週比 **LDN-£12/NY+\$12**
週内価格差額 (①-②)：LDN市場£44 (傾向→) / NY市場\$55 (傾向→)
週内建玉推移：LDN市場 223,428枚(9/27終了時)⇒ 222,046枚 (10/3終了時) **-1,382枚**
NY市場 212,296枚(9/27終了時)⇒ 211,968枚 (10/3終了時) **-328枚**

【10月7日～10月11日】：需要逼迫、磨砕数量好調を受けて一気に相場高に

①週最高：12月LDN市場£1,779 / 12月NY市場\$2,746 (10/11) 先週比 **LDN+£72/NY+\$106**
②週最低：12月LDN市場£1,747 / 12月NY市場\$2,699 (10/7) 先週比 **LDN+£84/NY-\$114**
週内価格差額 (①-②)：LDN市場£32 (傾向↑) / NY市場\$47 (傾向↑)
週内建玉推移：LDN市場 226,461枚(10/4終了時)⇒ 236,235枚 (10/10終了時) **+9,771枚**
NY市場 211,448枚(10/4終了時)⇒ 216,628枚 (10/10終了時) **+5,180枚**

【10月7日(月)】両市場とも続伸=NYは1年超ぶり高値

ニューヨーク市場のココア先物は続伸し、1年超ぶりの高値を付けた。西アフリカの天候懸念に加え、国際ココア機関(ICC O)が需給逼迫(ひっばく)の見通しを示したことが相場を押し上げた。

12月きりは続伸、88ドル(3.4%)高の**2699ドル**で終了した。一時、2012年9月以来の高値となる2710ドルまで値を上げた。

ICC Oの幹部は、アジアの消費拡大を背景に今後4年間、世界の 카카오豆供給は需要を5万~6万トン下回るとの見通しを示した。

カカオ豆主産地の西アフリカでは、ここ最近降雨が続いており、今年の供給量が不足するとの懸念が広がっている。

2012~13年度のガーナのカカオ豆生産量は前年比5%減の83万5410トンだった。ロンドン

市場の12月きりも続伸し、53ポンド（3.1%）高の1747ポンドで引けた

【10月8日（火）】両市場とも続伸＝ロンドンは一時2年超ぶり高値

ニューヨーク市場のココア先物は続伸、12月きりは19ドル（0.7%）高の2718ドルで終了した。一時は2012年9月以来の高値となる2731ドルを付けた。

ロンドン市場の12月きりも続伸し、7ポンド（0.4%）高の1754ポンドで引けた。一時は11年9月以来の高値となる1765ポンドを付けた。供給逼迫（ひっばく）をめぐる懸念に加え、10日に発表される欧州の第3四半期圧砕高統計で需要の堅調さが示されるとの見方が支援要因となった。あるトレーダーは同統計について、5～10%の増加になると予想している

【10月9日（水）】両市場とも反落＝あと値を消す

ロンドン市場のココア先物12月きりは小幅反落。1ポンド安の1753ポンドで引けた。3月きりは一時1744ポンドと、1年1カ月ぶり高値を付けたが、あと値を消し、3ポンド安の1738ポンドで引けた。

欧州ココア協会が10日発表する7～9月期の圧砕統計について、市場は前年同期比3～10%の増加を見込んでいる。

ニューヨーク市場の12月きりも反落。15ドル安の2703ドルで引けた。一時、2733ドルと、1年1カ月ぶりの高値を付けたが、あと値を消した。市場関係者によると、予想を上回る需要に加え、2013～14年度に世界全体で実質供給不足に陥るとの観測が下値を支えているという。

【10月10日（木）】両市場とも上昇＝欧州の良好な圧砕統計映す

ロンドン市場のココア先物は、欧州の7～9月期の圧砕統計が前年同期比4.7%増の33万1514トン（市場予想は同3～10%増）と良好な内容だったことに支援され、一時2年ぶり高値まで上昇。ニューヨーク市場も上昇し、取引後半に1年1カ月ぶり高値を付けた。

ロンドン市場の12月きりは1767ポンド、3月きりは、2番ぎりとしては2011年10月以来の高値となる1754ポンドまで上昇した後、上げ幅を縮小し、13ポンド（0.7%）高の1751ポンドで引けた。

ニューヨーク市場の12月きりは、12年9月6日以来の高値2735ドルを付けた後、26ドル（1%）高の2729ドルで終了した。北米の7～9月期の圧砕統計は17日に公表される予定。トレーダーらは前年同期比で6～10%増と予想している。

【10月11日（金）】両市場とも続伸＝産業筋の買い

ロンドン、ニューヨーク市場のココア先物はともに続伸し、2年ぶり高値を付けた。産業筋の買いが入ったほか、世界的な在庫不足が生じるとの観測が広がった。ディーラーらは北米とアジアの圧砕高統計の公表を待っている。

ロンドン市場の12月きりは、1779ポンド、3月きりは11ポンド（0.6%）高の1762ポンドで終了。一時2番ぎりとしては2011年10月以来の高値となる1764ポンドまで上昇した。

ニューヨーク市場の12月きりは、2年ぶり高値の2752ドルを付けた後、17ドル（0.6%）高

の**2746ドル**で引けた。

ディーラーらは加工業者や製造業者の引き合いがあったとみている。

ディーラーの注目は17日に公表される北米の圧砕高統計に移っている。圧砕高は前年同期比6～10%増になると予想されている。アジア・ココア協会は、四半期の統計の発表日を明らかにしていないが、マレーシアの統計については17日に公表される予定。

2、世界カカオ豆市場、向こう4年間は供給不足＝I C C O事務局長 (10/8)

カカオ豆の生産者と需要家の団体である国際ココア機関（I C C O）のジャンマルク・アンガ事務局長は7日、アジアでの需要増や供給上の問題から、世界のカカオ豆市場が向こう4年間は供給不足になるとの予想を示した。

I C C Oは9月末で終了した前年度の供給不足推計を、従来の5万2000トンから8万6000トンに上方修正した。ただ、事務局長は、業界会合が開かれたマレーシアクアラルンプールでロイター通信に対し、向こう4年間の供給不足は「5万～6万トンに近い水準になる」と述べた。

アジアの中産階級拡大による需要増や大口消費国の売り上げ回復を背景に、チョコレートの主原料であるカカオバターの価格は半年前のトン当たり4000ドルから7000ドル以上へと、2倍近くに値上がりしている。事務局長は、「全般的にアジアの消費には大きな可能性があるが、特に中国を重視している」と語った

3、ガーナ 2012/2013 シーズンの最終カカオ豆生産数量は 835,410 トン(10/8)

ガーナの2012/2013シーズンのカカオの生産数量（着荷数量）は合計で835,410トン、前シーズン対比で5%減少となったとカカオ産業の監督庁であるココボッドが発表した。

また、上記の合計数値に7月～9月のライトクロップの集荷数量65,118トンが含まれていると発表した。ガーナのカカオ産業は2つのシーズンで構成されており、10月～6月に収穫、集荷され主に輸出用のカカオ豆とされるメインクロップ、7月～9月に収穫、集荷され主に国内の加工業者に販売されるライトクロップがある。

4、コートジボワールのカカオ豆品質が改善＝コーヒー・ココア評議会(10/9)

コートジボワールのコーヒー・ココア評議会（C C C）は8日、2012～13年度産のカカオ豆品質が大幅に改善したとの見解を示した。同国のカカオ豆の品質基準は、生産部門の改革プログラムで改定されたばかり。

C C Cは2012～2013シーズンは、輸出時点でカビ率を4%以下、水分値9%を輸出用の基準として設定した。前2011～2012シーズンの同国の基準はカビ率で8%以下、水分値で12%以下であった。

C C C技術部門幹部は記者団に対し、「基準以下と判定されたカカオ豆は全体の19%にとどまった。前年度は半分が基準を下回っていた」と述べた。

また、基準以下と判定された19%のカカオ豆については国内の加工用として販売され、輸出用としては全て基準をクリアしたものが輸出されたと説明した。

生産改革プログラムは生産農家の収入増と老朽化した農園の再建、同国産カカオ豆のイメージ向上を目的としている。

CCCの幹部は、『我々の品質はガーナと同等で、今後も品質の向上や確認に努め、今シーズンはこの19%の基準以下のカカオ豆の数値を更に下げていくつもりだ』と語っている。

5、ドイツの7～9月のカカオ豆圧砕量、前年比6.76%増＝業界団体(10/10)

ドイツ菓子工業会（BDSI）は10日、同国の第3四半期（7～9月）のカカオ豆圧砕量は、前年比6.76%増の9万2571トンだったと発表した。

第1四半期（1～3月）の圧砕量は前年比12.66%減、第2四半期（4～6月）は同10.67%減だった。これら数字は調査対象会社が減少したことによるもので、BDSIのスポークスマンは「こうした統計の影響はなくなり、ドイツの統計は欧州の傾向により近くなった」と述べた。

欧州ココア協会（ECA）が同日発表した統計によると、第3四半期の欧州のカカオ豆圧砕量は前年比4.7%増の33万1514トンだった。またBDSIは、圧砕量の増加は需要増の前兆とし、「満足」としているが、ココア価格の上昇は引き続きの圧迫材料となっていると指摘した。今週のココア相場は世界的な供給不足が予測され、13か月ぶりの高値を付けた。

6、欧州の7月～9月のカカオ豆圧砕数量、前年比4.7%増＝業界団体（10/10）

欧州の第3四半期のカカオ豆圧砕数量は前年の同時期対比で4.7%の増加の331,514トンとなったとベルギーブリュッセルを本拠地とする欧州ココア協会が発表した。この増加は、事前のトレーダー筋の予測範囲として考えられていた3～10%の増加数量という想定内の範囲であった。

7、マレーシアの7月～9月のカカオ豆圧砕数量、前年比3.1%減＝業界団体（10/14）

第3四半期のマレーシアのカカオ豆圧砕数量は前年の同時期と比較して、3.1%の減少となる71,150トンとなったことがマレーシアココアボード（MCB）の発表で判明した。

MCBは数値について詳細を語らなかったが、今回の減少については圧砕業者がココアパウダーの販売に苦戦している背景と、世界的なカカオ豆の価格の上昇から圧砕数量が減少していると推測されている。

***特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております！！こちらも何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。**

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

〈お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先〉

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp